

PDCAチェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	到津の森公園など市内の教育関係施設による人材育成						施策番号		
							I-3-(1)-②		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,500 千円	(備考)	担当局	建設局
		8,500 千円	8,500 千円		課長	0.05 人 職員 0.11 人		担当課	公園管理課
			係長		0.11 人	課長名		花田	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	到津の森公園は、「市民環境力」を高めるため、市内の教育関係施設(ほたる館、水環境館、板櫃川「水辺の楽校」、洞海ピオパーク)と連携し、市内の小学生を対象に体験活動を通じた3つの環境学習プログラム(①～③)と小学校の教師を対象にしたプログラムを提供して、子どもたちに命の大切さを教え、自然環境の保全に対する意識を醸成します。学習内容は命や環境、自然などいくつかのテーマの中から選択でき、①長期学習プログラム(園での通年の総合学習)、②1日学習プログラム(園と市内教育施設の中から選択した施設、その2施設が連携した学習プログラム)、③遠足向け学習プログラム(遠足で園を利用する小学生のための学習プログラム)などがあります。	成果実績	参加者数は、前年に比べ増加しており、参加者からは「環境保全や命の大切さを実感した、児童の関心が高まった」という感想が寄せられています。
----	--------------------	--	------	---

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】
		「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態にします。 「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態であることを数値で表すことは困難です。 (最終目標と目標年度)	—	「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態を目指します。	—	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	到津の森公園と市内4施設が連携し、学習プログラムを実施します。(体験学習の機会の提供) 平成23年度 参加予定校数:45校、参加予定者数:3,500人 北九州市都市整備公社に業務委託をしています。	活動実績	平成23年度は担当スタッフを増員し、プログラムの充実を図りました。また、特別支援学校小学部や朝鮮初級学校の児童の参加募集を行いました。
------	--	------	---

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
		到津の森公園環境学習プログラムの参加者数 環境学習プログラムへの参加者を増加させ、「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識の醸成を図ります。	3,446 人	3,500 人	3,779 人 108.0 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態であることを数値で表すことは困難ですが、参加者数は増加しており、本事業の活動内容が着実に浸透していると判断しました。学習プログラムを学校活動に取り入れる学校数も増加しており、有効性の高い活動ができていると考えています。今年度も新たに募集対象を広げるなど、事業目的を達成する工夫を毎年加えていることの効果があがっています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	教育委員会や市内教育関係施設と協力のもと、事業実施の核となる到津の森公園の指定管理者に直接事務委託をしていることから、質の高いプログラムを低いコストで提供することができます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成24年度と同程度で、3500人の参加者を目指します。事業費は現状維持です。	「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	総合的な治水対策の推進						施策番号
							Ⅱ-1-(4)-③
コスト	事業費	平成23年度執行額 3,573,820 千円	平成24年度当初予算額 2,474,385 千円	人件費 の目安	金額 86,500 千円 (備考)	担当局	建設局
					課長 1 人 職員 8 人	担当課	水環境課
					係長 1.5 人	課長名	田口

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	近年、ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加しています。浸水被害を抑制するため、河川整備や公共下水道の整備を進めるとともに流域全体の貯留・浸透・保水能力の向上など総合的な治水対策の検討を行います。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、浸水被害の低減を目指します。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	浸水被害の低減	-	浸水被害の低減を目指します。	-		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	近年の集中豪雨など、雨の降り方により、被害の規模が違うため、一概に比較することは困難ですが、浸水被害の低減を図ります。 (最終目標と目標年度)			-		
					-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
(最終目標と目標年度)						

活動計画	H21、22の豪雨により浸水被害が発生した河川の重点的な整備をはじめ、優先度の高い河川について護岸工事等を行い、河川整備の進捗を図ります。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	河川整備率	82 %	83 %	83 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	河川の拡幅や河床の掘削等を行い、河川整備率を上げることにより、治水対策を進めます。			100.0 %		
					-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
(最終目標と目標年度)						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き、用地の確保や関係機関との調整に努め、浸水対策に効果的な整備を図っていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	河川整備・雨水整備は浸水被害の根本的な解決策であり、効率的な方法だと考えます。また、整備箇所毎に最も経済的な方法を検討し整備を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題
	今後も引き続き、用地の確保や関係機関との調整に努め、浸水対策に効果的な整備を行っていきます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成21年、22年の豪雨による浸水被害の対策が順調に進捗していることから、平成25年度の事業費は縮小しますが、引き続き、効率的な事業の進捗に努めます。平成25年度末の河川整備率の目標を84%とします。
	浸水被害の低減を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	ボランティアネットワークの推進(道路サポーター)							施策番号	
								Ⅲ-1-(1)-③	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	9,400 千円	(備考)	担当局	建設局
		16,231 千円	20,000 千円		課長	0.05 人 職員 0.95 人		担当課	道路計画課
			係長		0.17 人	課長名		橋口	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	道路、公園、河川のボランティア活動を行うこと、団体相互の情報交換や活動の共有化(ネットワーク)を行うことで、事業のさらなる発展と本市の美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図ります。そのために、本市では、道路清掃などのボランティア活動を行っていただける団体を対象に、清掃用具や花苗の支給などにより支援します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	道路サポーター加入団体数	164 団体	220 団体	179	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図るためには、道路サポーターの加入団体数が増加することが望ましいため、加入団体数としました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度までに220団体			81.4 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

活動計画	今年度は、昨年度に引き続き、清掃活動等の支援(清掃用具や花苗の支給など)をNPO法人に委託します。また、活動団体の交流・連携を図る目的で総会を開催します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	道路サポーター加入団体数	164 団体	185 団体	179	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図るためには、道路サポーターの加入団体数が増加することが望ましいため、加入団体数としました。			96.8 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動は予定どおり行いましたが、成果は目標に届きませんでした。構成メンバーの高齢化などによる、活動団体の解散が要因と考えられます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	広報にコストをかけずに、多くの市民に本制度を知っていただくため、清掃活動に関する各種イベントへの参加や活動団体の交流・連携のために開催する総会への一般参加の受け入れ等を行っています。民間活力導入については、ボランティア活動を支援する企業等が現在の市の支援レベルを確保できれば、可能性はあると考えられます。

以下、予算要求時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算要求時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 代表的な成果指標は、ほぼ目標どおりの成果を得ることができましたが、24年度は成果が伸び悩んでいます。今後は、市が主体となって結成促進のためのPRを行うだけでは、目標を下回ることが予想されるため、より効果的な方法を検討していく必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 道路サポーター制度の運営に関する新たな仕組みを導入し、活動団体による主体的な運営を促すとともに、区毎に道路サポーター活動団体が交流・連携のために集まり、身近などでの新規活動団体の結成促進を図ります。事業費は業務委託内容の見直し等により、減額となります。
	「道路サポーター加入団体数」は220団体を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	ボランティアネットワークの推進(公園愛護会)						施策番号
							Ⅲ-1-(1)-③
コスト	事業費	平成23年度執行額 44,415 千円	平成24年度当初予算額 46,114 千円	人件費の目安	金額 18,135 千円 課長 0.24 人 職員 1.45 人 係長 0.45 人	(備考)当該事務事業については各区まちづくり整備課が補助金交付事務や愛護会の相談事務を行っています。	担当局 建設局
							担当課 公園管理課
							課長名 山中

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	街区公園の維持管理業務のうち、清掃や除草などについて、地元等で結成されている公園愛護会と協働による事業の実施を図るため、公園愛護会へ助成金を交付しています。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	公園愛護会団体数	1,145 団体	1,150 団体	1,159 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	高齢化、少子化、さらには経済不況などの影響に伴い、ボランティア活動を行う団体の解散もあることから、全体の結成数を現状維持とし、平成25年度時点で1,160団体を目標とします。 (最終目標と目標年度) 平成25年度時点で1,160団体			100.8 %		
(最終目標と目標年度)					順調	

活動計画	<ul style="list-style-type: none"> 公園愛護会へ助成金の交付を行い清掃や除草等の活動を支援します。 エコライフステージに出展し、道路サポーターや河川愛護団体とともに公園愛護会の活動を紹介します。 都市緑化祭において、永年に渡って熱心に活動に取り組まれている愛護会や会員の方の表彰を行うほか、国土交通大臣表彰にも積極的に推薦を行います。 	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	公園愛護会結成促進のためのPR活動等	-	-	予定どおり実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	エコライフステージへの出展や、都市緑化祭での市長表彰の実施、国土交通大臣表彰への積極的な推薦により、公園愛護会活動について市民の方に関心を持っていただき、公園愛護会の結成促進につながるよう努めます。					
(最終目標と目標年度)					順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>「経済性」 「効率性」 の分析</p>	<p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p> <p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>成果の状況、活動の状況、いずれも順調です。</p> <p>本事業はボランティア団体である公園愛護会と協働を図ることで、公園の維持管理コストの一部削減を実現しています。本事業を止めた場合、公園の維持管理コストが増大し、また適切な維持管理が出来なくなる恐れがあります。公園愛護会との長年の協働が、現状の公園の維持管理につながっていると考えます。ボランティア団体による活動であるため、補助金交付や公園整備等、市の関与をなくすことは出来ません。</p>
------------------	---	--	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	<p>課題</p> <p>高齢化により解散する団体も多く、平成24年10月時点では1,152団体に減少しましたが、今後も公園愛護会の活動について市民の方に関心を持っていただき、公園愛護会の結成促進につながるよう努めます。</p> <p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>公園愛護会活動についてのPRや積極的な表彰、表彰の推薦を行い、結成促進に努めます。結成促進により団体数の増加を目指しますが、事業費は現状維持です。</p>	<p>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p> <p>平成25年度で公園愛護会の団体数1,160団体を目標とします。</p>
---------------	--	---

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	ボランティアネットワークの推進(河川愛護団体)						施策番号
							Ⅲ-1-(1)-③
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	14,600 千円 (備考)	担当局
		2,440 千円	2,640 千円		課長	0.4 人 職員 0.8 人	担当課
					係長	0.4 人	課長名
							建設局
							水環境課
							田口

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	地域の住民で構成する河川愛護団体に清掃道具購入の費用等となる補助金を交付することにより、地域の河川を身近に感じてもらい、美化活動を広げていきます。			成果実績	下記の代表的な成果指標とおります。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	河川愛護団体数	69 団体	74 団体	69 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	河川における美化活動を広げるためには、地域での意識を高めるために、身近な団体を作り、情報発信を行う必要があります。 (最終目標と目標年度)平成25年度末で84団体			93.2 %			
(最終目標と目標年度)					順調		

活動計画	・河川愛護団体へ補助金の交付を行い清掃や除草等の活動を支援します。 ・エコライフステージに出展し、道路サポーターや公園愛護会とともに河川愛護団体の活動を紹介します。 ・永年に渡って熱心に活動に取り組まれている愛護団体や会員の方を、福岡県の河川功労者表彰などへ積極的に推薦しています。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	河川愛護団体結成促進のためのPR活動等	-	-	予定どおり実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	エコライフステージへの出展や、福岡県河川功労者表彰への積極的な推薦により、河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただき、河川愛護団体の結成促進につながるよう努めます。						
					順調		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	後継者不足などから活動を断念する団体もあったため、団体総数は、前年度と変わらず目標には達しませんでした。しかし新規加入団体が2団体あり、活動の輪が広がっていると考えられます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	河川愛護団体の行う清掃や除草を他の方法で行うと、業者への委託となりコストが高くなります。また、地域の住民のようなきめ細かな対応は困難です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	後継者不足から活動を断念する団体もあり、これを引き留めるのは難しく、団体数の単純増加を期待することは困難です。しかしながら今後も、河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただき、河川愛護団体の結成促進につながるよう努めます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただけるよう周知(市ホームページの充実など)を図ります。また活動を断念した団体があれば、その地域を重点的に、結成の促進活動を行います。事業費は現状維持です。	河川愛護団体の新規加入団体が、少しでも増えるよう、河川愛護団体の結成促進に努め、平成25年度末84団体を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり							施策番号			
								Ⅲ-1-(2)-①			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	11,575 千円	(備考)	担当局	建設局		
		110,215 千円	125,893 千円		課長	0.05 人		職員	1 人	担当課	緑政課
					係長	0.35 人				課長名	千々和

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市内各所が花で彩られ、四季折々に花を楽しむことが出来る「花のまち北九州市」をさらに育てていき、市民はもちろん、ここを訪れた人にも「住んでみたい、住み続けたい」と思える「花とみどり」と潤いのまちづくりを目指します。	成果実績	成果の状況は下記の通りです。
-----------	---------------------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		公共花壇及び市民花壇の面積 公共花壇及び市民花壇は市民に一番身近にある花壇であり、市と市民の花づくりの実績に直ちに反映されるものです。今後も市民との協働で「花とみどりの潤いのまちづくり」の推進に努めていきます。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 45,987㎡	45,142 ㎡	45,387 ㎡	44,829 ㎡ 98.8 %	
	特別緑地保全地区の買収面積 特別緑地保全地区の買収を行い、都市の中の緑の保全を行っています。 (最終目標と目標年度)	2,761 ㎡	2,400 ㎡	2,400 ㎡ 100.0 %		

活動計画	市民花壇においては市民との協働を推進していき、種からの花づくり推進やフラワーコーディネーターの活用した講座の開催などを推進していきます。 公共花壇においては、「勝山公園うるっちゃ！花壇」ボランティアとの協働や、スポンサー花壇など企業・団体の協力を得ながら、効率的な維持管理に努めるとともに、新たに設置する場合には、より効果の高いと考えられる場所に設置し事業効果を維持していきます。	活動実績	平成23年度はフラワーコーディネーター主催の勝山公園エコハウスを利用した花づくりの講習会の開催を市民向けに行い好評でした。また、「勝山公園うるっちゃ！花壇」では全国花のまちづくりコンクールで活動が評価され入選しました。
-------------	---	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		花づくりに関する講座の開催 フラワーコーディネーター主催の勝山公園エコハウスを利用した花づくりの講習会の開催を市民向けに行います。また、市民花壇や道路サポーター会員などを対象とした講習会の開催を行い、花づくりの推進とボランティア間の交流の推進を行います。	5 回	13 回	13 回 100.0 %	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		市民花壇においては、フラワーコーディネーターを活用した種からの花づくりの現地指導や講座の開催などを行い、ボランティア団体間での交流の推進を行うことが出来たと考えられます。その他にも、小・中学校や特別支援学校等での生徒を対象とした花づくりの指導箇所も増加し、学校教育を通じた花の推進を行うことが出来ました。 また、公共花壇で活動を行っている「勝山公園うるっちゃ！花壇」では、全国花のまちづくりコンクールで活動の取組が評価され入選することが出来、ボランティア団体の意欲向上に繋がったと考えられます。 特別緑地保全地区については、予算の範囲内で保全を行うことが出来ました。 市民花壇や学校等でのフラワーコーディネーターの指導箇所が増加するなど「経済性」は向上したと考えられます。スポンサー花壇についても、前年度と同数の企業・団体に協力していただき効果的な維持管理を行うことが出来ました。 今後は、市民や企業、団体との協働を更に推進していくためにも、市民花壇等のボランティア団体の運営を民間企業等に業務委託することで、民間の活力の導入と経済性・効率性の向上を図り、事業のPRを検討し進めます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 市民花壇団体の高齢化により活動の継続が難しいと脱退していく団体が近年増加しているため、市民花壇数の増加が難しくなっています。フラワーコーディネーターについても高齢化によりメンバーが減少しており1人にかかる負担が増えているため、出張指導の要望に対応することが難しくなっています。 次年度の活動計画(見直し内容) 新規フラワーコーディネーターの募集・養成などを行い、市民花壇団体や公共施設などから出張指導の依頼に常に対応できるような体制に整えます。平成25年度は、花づくりに関する講座の開催回数10回を目指します。事業費については、現状維持です。
	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 市民花壇団体や公共花壇などでの活動場所を増やし、ボランティア間の連携を進めていくことにより、平成25年度末で45,987㎡を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	子育てに配慮した公園整備						施策番号			
							Ⅲ-1-(2)-①			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	4,825 千円	(備考)	担当局	建設局	
		23,538 千円	7,500 千円		課長	0.05 人		職員	0.3 人	担当課
			係長		0.2 人			課長名	大庭	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 本事業は、既存公園に子育てに配慮したコーナーを設置することにより、乳幼児の心身の発達に役立ち、子育て中の保護者のストレスが軽減され、保護者が育児経験者などと世代を越えた情報交換や交流の場として寄与するなど、少子化社会へ向けた地域社会の活性化を図ることを目的としています。			成果実績			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	年度ごとに乳幼児コーナーを公園に整備	—	子育ての交流の場として公園を整備し、地域が活性化することを目指します。	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	利用者からは「公園に来る回数が増えた。」「子育て中の親同士で話ができ、子育て中の不安やストレスが軽くなった。」などの好評な意見を得ていますが、地域の活性化は数値で表すことは困難だと考えています。 (最終目標と目標年度)平成24年度			—		順調	
(最終目標と目標年度)							

活動計画	今後は、地域に役立つ公園づくり事業等で、地元協議の際に子育て公園事業の要望があれば、子育て公園事業の概念を活かした整備を行って行くこととなったため、平成24年度事業完了を見込んでいます。			活動実績			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	子育てに配慮した公園整備の件数	2 件	1 件	1 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	平成24年度完成に向け、公園整備の件数を指標として設定しています。			100.0 %		順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動状況については、24年度で終了となるため、順調としています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	育児サークル等が活動する市民センターや児童館等に隣接する公園で実施しており、人の集まりやすい場所に整備することで、多くの市民に利用されていることから効率的に整備を行っており、効果は高いと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 本事業について今後は、地元協議の際に子育てに関連する要望があれば「地域に役立つ公園づくり事業」等で議論を重ね、整備を行っていくこととなったため、平成24年度で事業を完了することとなりました。 次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標) —
	本事業について、より幅広く市民のニーズを汲み取るため、子育て世代だけにとどまらず「地域に役立つ公園づくり事業」等で多世代に渡る意見を聴取し、整備計画をたてていきます。よって「子育てに配慮した公園整備」事業費については、予算計上していません。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	地域に役立つ公園づくり事業							施策番号			
								Ⅲ-1-(2)-①			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	12,575 千円	(備考)	担当局	建設局		
		392,335 千円	240,000 千円		課長	0.05 人		職員	1.2 人	担当課	公園建設課
					係長	0.3 人				課長名	大庭

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	地域住民によるワークショップを行うことにより、地域のニーズに合った市民目線での計画を策定し、公園を身近に感じられ、公園を積極的に活用してもらおう状態にすることを目指します。					成果実績			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】				
	市民が身近に公園を感じられる状態	—	市民が身近に公園を感じられる状態を目指します。	—		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック				
	「市民が身近に公園を感じられる状態」は数値で表すことは困難だと考えています。代替の指標として「子育てに配慮された公園数」、「当事業の実施公園数」などで実績を算出します。 (最終目標と目標年度)									
	当事業の工事実施公園数+子育てに配慮された公園数	19 公園	38 公園	38 公園	100 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調			
	(最終目標と目標年度)									

活動計画	当事業はH20年度より実施しておりH24年度については4校区のワークショップを開催し、計画策定を行います。その翌年より約2か年をかけて整備を行います。						活動実績				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】					
	計画の策定校区数	8 校区	4 校区	3 校区		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック					
	毎年4校区程度を選定し、計画策定を行っていきます。			75.0 %							
						大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	事業は昨年度4校区中1校区が地元の中で参加者の調整が難航し、ワークショップを翌年に延期することとなりました。本市の身近な公園について全体的に老朽化が進んでおり、当事業を行うことは、事業目的を達成する上で有効であると考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	常に工事のコスト削減を踏まえた上で計画づくりを行っています。民間活力については現在のところ他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題		
	事業の実績(達成率)としては75%であり、1校区のみ次年度に継続して行うこととなりましたが、現在、ほぼ順調に進捗しています。今後については現在、ワークショップに参加される年齢層に偏りがみられるため、多世代に渡る多くの人に参加していただくためにさらなる努力が必要であると見えます。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
	ワークショップのエリア選定、募集の仕方も工夫し、参加していただくため市民の方々へ積極的にPRしていく必要があると考えます。また工事実施担当事業課との連携を図り計画的に進めていきます。各区役所、東西の整備事務所の工事進捗を見据えながら、2校区を実施する予定です。より効果的な公園事業を行う為に全体的な調整、見直しを行います。事業費については現状維持です。	市民が身近に公園を感じられる状態を目指します。当事業の工事実施公園数と子育てに配慮された公園数は平成25年度は16公園を目指します。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	暮らしにうるおいを与える河川整備事業							施策番号	
								Ⅲ-1-(2)-③	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	40,750 千円	(備考)	担当局	建設局
		897,127 千円	675,000 千円		課長	0.5 人 職員 4 人		担当課	水環境課
			係長		0.5 人	課長名		田口	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	これまでの河川事業は治水整備を中心に行われてきました。このため、生物の生息・生育環境、地域の景観などへの配慮が不足し、私達の日常生活から河川を遠ざけてしまいました。そこで、都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、市民の憩と潤いの場として活用し、生物の生息・生育環境を保全することによって、親しみのある河川を取り戻す水辺環境整備事業を行っています。				成果実績	計画的な整備により、市民が河川に親しみやすい環境整備が進んでいると考えています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	市民が河川に親しみを感じる状態	-	市民が河川に親しみを感じる状態を目指します。	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	市民が河川に親しみを感じる状態を数値で表すことは困難ですが、今後、代替指標の設定などを検討します。 (最終目標と目標年度)			-					
						大変順調			
(最終目標と目標年度)									

活動計画	河川整備を行う際に、限られた敷地の中で、最大限生態系に配慮した整備を進めていきます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	環境に配慮した護岸整備延長	31,500 m	31,000 m	32,700 m	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	護岸工事を行なう際に、魚巣ブロック等、生物に配慮した護岸の整備を進めることにより、生物の生息・生育環境を保全します。			105.5 %		
						大変順調
(最終目標と目標年度)						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	護岸工事を行う際には、ほとんどの河川で環境に配慮した整備を行っており、成果の状況、活動の状況、いずれも順調です。最終目標を大きく越えたため、今後目標数値の変更を行ない、より一層、環境に配慮した護岸の整備の進捗を図ります。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	各河川ごとに工法の検討などを行い、一番安価で効果のある工法を選択しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	護岸工事を行う際には、積極的に環境に配慮した整備を行っており、すでに最終目標を達成しました。今後は、数値目標の再設定を行い、より一層、環境に配慮した護岸の整備の進捗を図ります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	河川整備を行う際に、限られた敷地の中で、最大限生態系に配慮した整備を進めていきます。当初の目標は達成したため、護岸整備延長の見直しを行い、平成25年度の環境に配慮した護岸整備延長は34,000mを目標とします。今後もより一層、環境に配慮した護岸の整備を行い、市民が河川に親しみを感じる状態を目指します。事業費は現状維持です。	市民が河川に親しみを感じる状態を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	バリアフリーのまちづくり						施策番号	
							Ⅲ-1-(3)-②	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	63,650 千円 (備考)	担当局	建設局
		1,647,292 千円	1,427,000 千円		課長	0.1 人 職員 5 人	担当課	道路計画課
			係長		2.5 人	課長名	橋口	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	急速な少子高齢化の進展に対応するためには、高齢者や障害者など誰もが安全で快適に活動できるバリアフリーのまちづくりが求められています。平成18年にはバリアフリー新法も施行され、その必要性はさらに高まっています。本事業は、バリアフリー新法にも対応したよりきめ細かな歩道のバリアフリー化に取り組み、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。	成果実績	計画的な歩道整備により、高齢者や障害者が安心して活動できる状態が進んでいると考えます。
-----------	--------------------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		市民がバリアフリーのまちづくりを感じられている状態		市民がバリアフリーのまちづくりを感じられる状態を目指します		
	高齢者や障害者など誰もが安全で快適に活動できるバリアフリーのまちづくりを感じられている状態を数値で表すことは、困難だと考えています。				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」等と協議や現地点検を重ねながら、歩道のバリアフリー化の整備向上を図っていきます。	活動実績	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」との意見交換会や公共施設周辺のバリアフリー現地点検を実施し、その結果をハード整備に反映させました。
-------------	---	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		歩道整備延長			7.5 km	
	歩道設置や歩道のバリアフリー化を行った整備延長	4.3 km	7.0 km	107.1 %		
	主要駅周辺のバリアフリー特定経路の整備延長			0.2 km	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	主要な駅の周辺において、公共施設や病院などを結ぶ主要な道路を主要経路と定めて、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの連続誘導などのバリアフリー化を進めています。	0.7 km	0.7 km	28.6 %		

【Check】評価(分析)

分析及課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	本市における高齢化率は、全国平均を大きく上回るとともに、他の政令指定都市と比べ最も高く、高齢化が急速に進展しています。少子高齢化社会を先取りする先進的な取り組みが求められる中でバリアフリー化の推進は必要不可欠であり、着実な取り組みを継続することが必要であると考えます。現在、道路計画課の担当係長及び職員が主体的に「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」と調整等を行い、各区において適切なバリアフリー整備に取り組むとともに、東西整備事務所及び各区まちづくり整備課において、歩道整備や歩道の段差解消等の改修を行っています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本市は平成9年度の小倉都心地区をモデル地区から、市民との協働によるバリアフリーのまちづくりを行っております。現在もバリアフリー化については「まちづくりネットワーク」と現地点検や意見交換会を行いながら、事業を進めています。なお、現在のところ、歩道の新設、改良については他の実施主体は考えられないため、実施主体は市が適当だと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	<p>課題</p> <p>主要駅周辺の歩道のバリアフリー化が完了していない路線については、用地買収や沿道の建物との高さ調整などが必要とされるため、調整が難航している箇所があります。また現在、道路・街路事業に合わせ、歩道整備を行っているものについては、完了までには長期間の日時がかかります。今後は、対策が具体化していない地区について、関係機関と調整していく必要があります。</p>				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)との協議や現地点検は、これまでどおり協議を重ねながら、小学校の通学路の歩道整備とともにバリアフリー化の整備向上を図っていきます。事業費は増額を予定しています。</td> <td>市民がバリアフリーのまちづくりを感じられる状態をめざします</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)との協議や現地点検は、これまでどおり協議を重ねながら、小学校の通学路の歩道整備とともにバリアフリー化の整備向上を図っていきます。事業費は増額を予定しています。	市民がバリアフリーのまちづくりを感じられる状態をめざします
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)との協議や現地点検は、これまでどおり協議を重ねながら、小学校の通学路の歩道整備とともにバリアフリー化の整備向上を図っていきます。事業費は増額を予定しています。	市民がバリアフリーのまちづくりを感じられる状態をめざします				

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	撥川の整備						施策番号		
							V-1-(2)-②		
コスト	事業費	平成23年度執行額 314,458 千円	平成24年度当初予算額 161,000 千円	人件費 の目安	金額	8,075 千円	(備考)	担当局	建設局
					課長	0.05 人 職員 0.6 人		担当課	水環境課
					係長	0.3 人		課長名	田口

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	撥川をもう一度魚が住み、植物が生え、人々が水辺に近づける川に蘇らせようと市民参加のもと「撥川ルネッサンス計画」を平成9年に策定しました。本事業は、この計画をもとに、単なる治水事業でなく、副都心黒崎のシンボル「撥川」として河川整備を行うものであり、具体的には、人々が水辺に近づける川を整備し、周辺に整備される文化施設等と調和した潤いある水辺空間を創出するものです。	成果実績	計画的な整備により、市民が河川に親しみやすい環境整備が進んでいると考えています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民が河川に親しみを感ずる状態	-	市民が河川に親しみを感ずる状態を目標とします。	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民が河川に親しみを感ずる状態を数値で表すことは困難ですが、今後、代替指標の設定などを検討します。 (最終目標と目標年度) 市民が河川に親しみを感ずる状態			-		
	(最終目標と目標年度)					大変順調

活動計画	文化・交流拠点地区内の整備は平成24年夏の竣工を予定しています。地区内のホール・図書館等施設整備はPFI事業により民間事業者が実施し、撥川の改修は市が実施することから、多くの工事が輻輳することになります。関係者と密に連携し、工程調整を行い、工事の円滑な進捗に努めます。	活動実績	活動実績は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	事業の進捗率	92 %	95 %	95 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	平成26年度の河川改修の完了に向け、事業の円滑な進捗に努めます。			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)					大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き、用地の確保や関係機関との調整に努め、河川改修の早期完了に向け事業の進捗を図っていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	概ね、効率的であり、コストを削減する余地は少ないですが、工事を実施する際は、より経済的な工法を選択しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成23年度は順調に事業が進捗しました。平成24年度も黒崎副都心「文化・交流拠点地区」内の整備が完了するなど順調に成果が出ています。来年度の施工箇所については、関係機関との調整に不測の日数を要している状況です。今後も河川改修の早期完了に向け事業の進捗を図っていきます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 市民が河川に親しみを感ずる状態を目指します。
	次年度の活動計画(見直し内容) 次年度も引き続き、関係機関と調整を行い、支障物件の移設や護岸工事等の整備を進めます。平成26年度の河川改修の完了に向け、平成25年度は、事業の進捗率98%を活動の目標とします。事業費は縮小します。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	主要幹線道路の整備						施策番号		
							V-2-(2)-①		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	217,250 千円	(備考) 本庁道路部+東西整備事務所の職員を対象に試算しています。	担当局	建設局
		10,531,853 千円	8,545,323 千円		課長	3 人 職員 15.7 人		担当課	道路計画課
					係長	6.5 人		課長名	橋口

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	「ひびきコンテナターミナル」や「北九州空港」など港湾・空港へのアクセス道路の整備を行い、物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、産業の振興や新たな企業の誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図ります。	成果実績	暫定整備など計画的な整備により、着実に幹線道路の整備が推進されていると考えています。
-----------	--------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		主要幹線道路整備による市民生活や産業活動の効率化 活動の効率化を数値で表すことは困難ですが、主要幹線道路の整備を確実に進め、交通の利便性を向上させることで、市民生活や産業活動の効率化を図ります。 (最終目標と目標年度)	-	主要幹線道路の整備により、市民生活や産業活動の効率化を図ります。	-	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	平成22年度に暫定供用を予定していた道路の早期完了に向け整備を推進します。また、その他の道路については、供用目標年次に向け、確実に整備推進を図ります。	活動実績	暫定供用を開始するとともに、その他路線の整備を推進しました。
-------------	---	-------------	--------------------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		主要幹線道路の単年度完成延長(4車線のうち2車線等暫定の完成を含む) 市内の渋滞対策やネットワーク強化のため、主要な幹線道路の整備を進めています。	1.3 km	0.4 km	0.4 km 100.0 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発注した工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き、用地の確保に努めながら、早期に効果が現れるよう、暫定整備や一定区間の整備を図っていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	道路整備に関して、コスト削減を図っており、引き続き、品質の確保にも十分配慮しながらコスト削減を図っていきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	23年度から24年度にかけて事業はほぼ順調に進捗しました。とくに24年度においては、新若戸道路の1期の完成や黒崎バイパスの都市高速道路接続など、目に見えて成果が現れた年になりました。現在、整備を行っている幹線道路については、引き続き事業進捗を図っていきます。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	暫定供用など計画的な整備を図ります。一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図ることとし、事業費は減額しています。	主要幹線道路の整備により、市民生活や産業活動の効率化を図ります。

PDCAチェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	主要幹線道路の整備						施策番号		
							V-2-(2)-②		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	217,250 千円	(備考) 本庁道路部+東西整備事務所の職員を対象に試算しています。	担当局	建設局
		10,531,853 千円	8,545,323 千円		課長	3 人 職員 15.7 人		担当課	道路計画課
					係長	6.5 人		課長名	橋口

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	「ひびきコンテナターミナル」や「北九州空港」など港湾・空港へのアクセス道路の整備を行い、物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、産業の振興や新たな企業の誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図ります。			成果実績	暫定整備など計画的な整備により、着実に幹線道路の整備が推進されていると考えています。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	主要幹線道路整備による市民生活や産業活動の効率化	—	主要幹線道路の整備により、市民生活や産業活動の効率化を図ります。	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	活動の効率化を数値で表すことは困難ですが、主要幹線道路の整備を確実に進め、交通の利便性を向上させることで、市民生活や産業活動の効率化を図ります。 (最終目標と目標年度)					順調	
(最終目標と目標年度)							

活動計画	平成22年度に暫定供用を予定していた道路の早期完了に向け整備を推進します。また、その他の道路については、供用目標年次に向け、確実に整備推進を図ります。			活動実績	暫定供用を開始するとともに、その他路線の整備を推進しました。		
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	主要幹線道路の単年度完成延長(4車線のうち2車線等暫定の完成を含む)	1.3 km	0.4 km	0.4 km	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	市内の渋滞対策やネットワーク強化のため、主要な幹線道路の整備を進めています。			100.0 %		順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発注した工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き、用地の確保に努めながら、早期に効果が現れるよう、暫定整備や一定区間の整備を図っていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	道路整備に関して、コスト削減を図っており、引き続き、品質の確保にも十分配慮しながらコスト削減を図っていきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	23年度から24年度にかけ事業はほぼ順調に進捗しました。とくに24年度においては、新若戸道路の1期の完成や黒崎バイパスの都市高速道路接続など、目にみえて成果が現れた年になりました。現在、整備を行っている幹線道路については、引き続き事業進捗を図っていきます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	暫定供用など計画的な整備を図ります。一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図ることとし、事業費は減額しています。	主要幹線道路の整備により、市民生活や産業活動の効率化を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	橋梁の長寿命化への計画的な取り組み							施策番号	
								V-3-(1)-②	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	90,650 千円	(備考)	担当局	建設局
		1,991,573 千円	1,989,537 千円		課長	0.6 人 職員 9.5 人		担当課	道路維持課
			係長		1.25 人	課長名		堤	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	平成19年度から平成21年度にかけて策定した北九州市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、今後は主要橋梁(緊急輸送道路上の橋梁や橋長15m以上の橋梁など)に対して予防保全型の維持管理を行っていきませんが、すでに老朽化が進み抜本的な治療が必要な健全度Ⅳ、Ⅴの橋梁について、補修補強工事を実施し、予防が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁を増加させることで市民の安全・安心を確保します。			成果実績	当事業の成果の検証を毎年度数値で検証することは困難ですが、予防が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁を増加させることで市民の安全・安心を確保します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】			
	主要橋梁の健全化の向上による市民の安全・安心の確保		予防が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁を増加させます			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	主要橋梁の健全化を数値で検証することは困難であるが、すでに老朽化が進んでいる128橋を予防保全が有効な健全度ランクⅢ以上になるように補修補強工事を実施します。健全度ランクⅢ以上の割合が増加することで、予防保全型管理への移行の様子が把握できます。 (最終目標と目標年度)						大変順調 順調 やや遅れ 遅れ		
	(最終目標と目標年度)						順調		

活動計画	今年度実施予定の10橋について健全度を向上するように補修補強工事の完成を目指します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】			
	事業の進捗率		78.0 %	78.0 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	平成31年度までに、すべての主要橋梁が健全度ランクⅢ以上となることを目指し、事業の進捗率を指標として設定しました。	77%	78.0 %	100.0 %			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ		
				%			順調		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動の状況については、事業が予定どおり進んでいるため順調としました。成果の状況については、毎年度数値で検証することが困難ですが、橋梁の長寿命化工事に計画的に取り組むことで、維持管理トータルコスト削減が図られ市民の安全・安心を確保することが出来ます。このため、本事業を実施することは事業目的を達成する上で有効であると判断し順調としました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本計画に基づく補修補強工事の実施により、従来型の維持管理と比較し、今後100年間で約6割のトータルコスト削減の効果が得られ、予算の平準化が可能となりました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題		
	平成23年度は順調に事業が進捗しました。平成24年度も引き続き橋梁の長寿命化に取り組み橋梁の補修補強工事を進めていきます。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
	平成31年度までにすべての主要橋梁が健全度ランクⅢ以上となるよう計画に沿って事業を進めていきます。平成25年度の事業の進捗率は84%を目指します。事業費は現状維持です。	予防が有効な状態である健全度ランクⅢ以上の橋梁を増加させることで市民の安全・安心を確保します。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	長野緑地を利用した農業体験教室							施策番号
								VI-1-(2)-②
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,595 千円	(備考)	担当局
		2,600 千円	2,600 千円		課長	0.03 人 職員 0.1 人		担当課
					係長	0.05 人		課長名
								山中

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、体験交流公園」を目指しています。当事業では平成15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また、計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行います。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山・里地としての農村景観の維持を図ります。				成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	市民参加による農業体験教室の参加者数	2,300 人	2,000 人	1,759 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	平成15年度に事業を開始し平成20年度に参加者数が2,000人を超えました。毎年度2,000人を超える参加者を目指します。 (毎年度参加者数2,000人)			88.0 %					
	(最終目標と目標年度)					順調			

活動計画	農業体験教室は自然相手の事業であり、毎年自然条件が異なる中で、最善を尽くして事業を進めています。地元の団体や幼稚園、小学校と連携して活動を行います。農業体験を行うことで、自然に親しむ機会を与え、食への関心、家族や友達と一緒に作業する喜びやふれあいが得られることを期待しています。事業の実施はNPO法人長野美し村計画実行委員会に委託しています。				活動実績	左記活動計画を実施		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	市民参加による農業体験教室の実施	71 回	50 回	37 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	基本的な野菜作り、土になじむことを目的としたサツマイモの作付け、芋ほりや水田でのもち米の田植え稲刈り等を行い、収穫物の試食会を開催します。ひまわり、コスモスの種をまきを行い、花畑整備を行います。			74.0 %				
	(最終目標と目標年度)					順調		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	天候に左右される事業であり、平成23年度は活動予定日に雨の日が多く、活動および成果目標を下回ったが、平成20年度以降2000人を超える参加があった。成果の状況は順調と考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	委託している「NPO法人長野美し村計画実行委員会」の主な構成員は、地元の農業従事者であり、自宅からの長野緑地までの距離が近いことや農業用耕作機械等の調達等の面で有利です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	23年度は天候に影響を受けましたが、平成24年度は順調に事業を行っています。(12月末まで参加者1,758人)
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	市民参加による農業体験教室は平成25年度も50回の実施を予定しています。事業費は現状維持です。	2000人を超える参加者数を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	市民がほたるなどの自然とふれあう環境の創出						施策番号			
							VI-4-(1)-②			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	8,750 千円	(備考)	担当局	建設局	
		8,366 千円	8,523 千円		課長	0 人		職員	0.5 人	担当課
			係長		0.5 人			課長名	田口	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	北九州市は大都市でありながら、60を超える河川でホタルが飛翔するなど、豊かな自然環境に恵まれ、身近なところで自然や生物に触れることができます。その自然環境を保全・創造するため、市民が行うホタルの保護育成など自然環境の保全活動を支援します。	成果実績	交付団体数は、期間の満了により2団体減となる一方、新規に1団体が加わりました。
-----------	--------------------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】
	ほたる育成助成金交付団体数	10 団体	13 団体	9 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	助成金には7年間の交付期限があり、これまでに20団体への交付が終了しました。交付を受けた団体は、助成終了後もホタル保護活動を継続し、ホタルを通じた地域の自然環境の保護活動を牽引しています。 (最終目標と目標年度) 13団体 (25年度)			69.2 %		
						順調

活動計画	今年度は、北九州市ほたる館(指定管理者)及び北九州ほたるの会の連携を強化し、ほたる館のホタル増殖技術を用いた「幼虫の放流事業」、北九州ほたるの会の専門家を活用した「ほたるアドバイザー派遣」を総合的に連携させ、ホタルを通じた市民主体の自然の保護・保全活動を支援します。	活動実績	市民がほたる館の技術と施設を活用し、採捕したホタルから採卵し、幼虫を育て、元の河川に放流する、「マイホタル」(会員94名)についても、下記の活動と連携して行いました。
-------------	---	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	ほたるアドバイザー派遣回数	15 団体	10 団体	7 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内のホタル専門家をアドバイザーとしてホタル保護団体等に派遣することにより、ほたるの保護育成活動の技術を維持、継承することが可能となり、ホタルを通じた自然環境の保全活動を支援します。			70.0 %		
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	ホタル育成助成金は、交付団体が9団体で目標には届きませんでした。新規が1団体、2~3年と活動歴の浅い団体が4団体と、活動の継続と広がりがあり、概ね順調でした。 また、ほたるアドバイザー派遣についても、派遣募集期間内の件数は減ったものの、制度の周知により年間を通じてほたる館に相談があるなど、市民を中心とした自然環境保全の活動範囲は広がり、一定の効果を発揮しているものと考えられます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ホタルの保護育成活動の一環として、市民ボランティアによる草刈りやゴミ拾い等の河川をきれいにする活動が着実に広がっており、河川の維持管理費の削減に効果を発揮しています。 また、ホタル等の愛護団体は地域の自治組織が主体となっていることが多く、他の市の事業とも密接な関わりを持つため、それらを考慮すると民間に事業を委託することは難しいと考えられます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	平成24年度のホタル育成助成金の交付団体数は、昨年度に引き続き9団体で目標の7割となっています。(2団体への交付が終了し、新規に2団体へ交付開始)ホタルの保護育成団体数が40前後で推移しているため、保護育成活動を行っている団体が存在しない河川や地域にも、支援を拡大していくことが課題となっています。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度は、ほたるアドバイザー派遣回数10回を目指します。また、これまでのホタル保護育成団体の支援活動に加え、市制50周年記念事業として誘致した、「全国ホタル研究会北九州大会」と「2013ほたるサミット北九州」の開催により、本市の取り組みを市内外にPRします。 なお、事業費は、上記記念事業は除き、現状維持です。	市制50周年記念事業の開催により、市内のホタル保護育成活動の和をさらに広げることにより、ほたる育成助成金交付団体数13団体を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	市民がほたるなどの自然とふれあう環境の創出						施策番号		
							VI-4-(1)-③		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	8,750 千円	(備考)	担当局	建設局
		8,366 千円	8,523 千円		課長	0 人 職員 0.5 人		担当課	水環境課
					係長	0.5 人		課長名	田口

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 北九州市は大都市でありながら、60を超える河川でホタルが飛翔するなど、豊かな自然環境に恵まれ、身近なところで自然や生物に触れることができます。その自然環境を保全・創造するため、市民が行うホタルの保護育成など自然環境の保全活動を支援します。			成果実績	交付団体数は、期間の満了により2団体減となる一方、新規に1団体が加わりました。		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】
	ほたる育成助成金交付団体数		10 団体	13 団体	9 団体	→	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	助成金には7年間の交付期限があり、これまでに20団体への交付が終了しました。交付を受けた団体は、助成終了後もホタル保護活動を継続し、ホタルを通じた地域の自然環境の保護活動を牽引しています。 (最終目標と目標年度) 13団体 (25年度)				69.2 %		
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	
活動計画	今年度は、北九州市ほたる館(指定管理者)及び北九州ほたるの会の連携を強化し、ほたる館のホタル増殖技術を用いた「幼虫の放流事業」、北九州ほたるの会の専門家を活用した「ほたるアドバイザー派遣」を総合的に連携させ、ホタルを通じた市民主体の自然の保護・保全活動を支援します。			活動実績	市民がほたる館の技術と施設を活用し、採捕したホタルから採卵し、幼虫を育て、元の河川に放流する、「マイホタル」(会員94名)についても、下記の活動と連携して行いました。		
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	ほたるアドバイザー派遣回数		15 団体	10 団体	7 団体	→	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内のホタル専門家をアドバイザーとしてホタル保護団体等に派遣することにより、ほたるの保護育成活動の技術を維持、継承することが可能となり、ホタルを通じた自然環境の保全活動を支援します。				70.0 %		
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	ホタル育成助成金は、交付団体が9団体で目標には届きませんでしたが、新規が1団体、2~3年と活動歴の浅い団体が4団体と、活動の継続と広がりがあり、概ね順調でした。 また、ほたるアドバイザー派遣についても、派遣募集期間内の件数は減ったものの、制度の周知により年間を通じてほたる館に相談があるなど、市民を中心とした自然環境保全の活動範囲は広がり、一定の効果を発揮しているものと考えられます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ホタルの保護育成活動の一環として、市民ボランティアによる草刈りやゴミ拾い等の河川をきれいにする活動が着実に広がっており、河川の維持管理費の削減に効果を発揮しています。 また、ホタル等の愛護団体は地域の自治組織が主体となっていることが多く、他の市の事業とも密接な関わりを持つため、それらを考慮すると民間に事業を委託することは難しいと考えられます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	平成24年度のホタル育成助成金の交付団体数は、昨年度に引き続き9団体で目標の7割となっています。(2団体への交付が終了し、新規に2団体へ交付開始)ホタルの保護育成団体数が40前後で推移しているため、保護育成活動を行っている団体が存在しない河川や地域にも、支援を拡大していくことが課題となっています。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度は、ほたるアドバイザー派遣回数10回を目指します。また、これまでのホタル保護育成団体の支援活動に加え、市制50周年記念事業として誘致した、「全国ホタル研究会北九州大会」と「2013ほたるサミット北九州」の開催により、本市の取り組みを市内外にPRします。 なお、事業費は、上記記念事業は除き、現状維持です。	市制50周年記念事業の開催により、市内のホタル保護育成活動の和をさらに広げることにより、ほたる育成助成金交付団体数13団体を目指します。